

7-1

誤嚥事故防止に対する取り組み。

家庭用掃除機を利用した自作吸引機の紹介。

誤嚥事故対策

自作吸引機

養護老人ホーム 大森老人ホーム

支援員 伊藤 邦明	
住 所 大田区大森本町2-2-2	
TEL 03-3762-8790	E-mail oomori_home@triton.ocn.ne.jp
FAX 03-3762-8920	URL http://www6.ocn.ne.jp/~sousei4/

今回の発表の施設 またはサービスの 概要	大田区にある定員130名の養護老人ホーム。区立高齢者在宅サービスセンターが併設。建物は都立や体育館、児童館等がある複合施設の1階から4階までが養護老人ホーム。利用者の居室は2階から4階部分にあり食堂も2階3階4階と3箇所ある。
----------------------------	---

〈取り組んだ課題〉

- 1 ホームにある医療用吸引機では食事などがつままった場合に不安があった。
- 2 ホームには掃除機につけ使用するIMG 救急吸引ノズルはあるが、使用の際は吸引ノズルと掃除機を別々の場所にあったため誤嚥のような1分1秒を急ぐ場合には対応が遅れる危険性がある。
- 3 これは掃除機に直接つけ使用するためとれた食物やたんなどが掃除機に直接溜まり1回使用すると衛生的に問題があると考えられる。
- 4 そこで吸引ノズルと掃除機の間に汚物がためることができるものを梅酒の瓶を利用し自作する。
- 5 吸引ノズル、掃除機、自作吸引瓶を台車にセットし誤嚥事故が発生した場合にすぐに使用出来るよう各食堂に設置する。

〈具体的な取り組み〉

- 吸引機の作成。
- 職員会議にて使用方法を説明。
- 誤嚥事故が実際に起きたので実際に吸引機を使用した。その結果うまく機能した。
- 吸引機改良→延長コード、スイッチをつけ使いやすく改良。
- 家庭用掃除機があれば安価（材料費2000円程度）に作成できるため各階食堂に設置した。
- 食堂の全部のコンセントの位置を分かりやすく貼紙をした。
- 改良後吸引機の使用法説明。

〈活動の成果と評価〉

- 作成後19年11月利用者が夕食で誤嚥、チアノーゼ出現、背部叩打法等行うが改善しないため吸引機を使用し親指ほどの高野豆腐がとれる、その後自己呼吸が可能となる。
- 各食堂に吸引機があるため事故時の対応が素早く出来る。
- 誤嚥事故がそう頻繁に起こるわけではないので実際経験したことのない職員も食事の残り等で実際に吸引し感覚を体験出来る。
- 訪問歯科でのたんの吸引やうがいのできない利用者の口腔ケアにも利用出来る。
- 掃除機に直接吸引ノズルをつけるよりは吸引力はおちる。

〈今後の課題〉

- 実際に吸引機を使うような場面に直面したとき、その場にいる職員がだれでも使用できるよう定期的に使用方法の体験学習が必要。

【メモ欄】